

<p>研究成果</p> <p>3,000 字程度 (別紙添付可)</p>	<p>【研究会開催状況】</p> <p>2017 年 4 月 15 日 2017 年度第 1 回労働理論研究会</p> <p>テキスト： Levine, Philippa. 2003. "Introduction". <i>Prostitution, Race and Politics: Policing Venereal Disease in the British Empire</i>. Routledge.</p> <p>2017 年 5 月 27 日 2017 年度第 2 回労働理論研究会 (前掲書、Chapter 7)</p> <p>2017 年 7 月 1 日 2017 年度第 3 回労働理論研究会 (前掲書、Chapter 7, pp. 182-198)</p> <p>2017 年 8 月 12 日 2017 年度第 4 回労働理論研究会 (前掲書、Chapter 8, pp. 199-229)</p> <p>2017 年 9 月 15 日 2017 年度第 5 回労働理論研究会 (前掲書、Chapter 8 (残り))</p> <p>2017 年 12 月 23 日 2017 年度第 6 回労働理論研究会</p> <p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 朴裕河、「日本語のための序文」「慰安婦問題」をめぐる経緯『帝国の慰安婦—植民地支配と記憶の闘い』、2014 年、朝日新聞出版、pp. 9-18。 2. 上野千鶴子、『帝国の慰安婦』のポストコロニアリズム」西成彦他編著『対話のために—『帝国の慰安婦』という問いをひらく』2017 年、クレイン、pp. 213-258。 3. 宮城晴美、「沖縄からの意義申立て—上野千鶴子『帝国の慰安婦』のポストコロニアリズム」を読んで『女性・戦争・人権』第 16 号、2018 年。 4. 鄭栄桓、『忘却のための「和解」—『帝国の慰安婦』と日本の責任』、2016 年、世織書房。 5. 木下直子、『慰安婦』問題の言説空間：日本人「慰安婦」の不可視化と現前』、2017 年、勉誠出版。 <p>2018 年 1 月 27 日 2017 年度第 7 回労働理論研究会 (前掲書続き)</p> <p>2018 年 3 月 11 日 2017 年度第 8 回労働理論研究会</p> <p>小森/陽一・高橋哲哉編『ナショナル・ヒストリーを超えて』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懺悔の値うちもない / 大越愛子 ・母を辱めるな / 徐京植 ・忘却のための「国民の物語」 / 岩崎稔 <p>【研究成果】</p> <p>今年度は、計 8 回の労働理論研究会を実施し、①大英帝国における性病管理に関する売買春と人種をめぐる政治学についての文献、②従軍慰安婦と売買春・人種・国民国家の関係を考える文献などを基本テキストとしながら、沖縄戦後史における売買春や人種、労働に関する分析考察のための分析枠組み、概念などの再検証を試み、別紙の知見や論点を得ることができた。</p>
--	---

【得られた知見や論点】

- ① Levine は、race をどういう位置づけにしているのか。米軍要員と米国市民の差異をどう考えるのか。米軍要員の中の差異をどう考えるのか。46 年の資料に、レイプの加害者の統計では、white, negro, Jap (日本兵か?), Okinawan に分けられている。Levine の本の中では、white しか出てこない。米軍要員=white だけではないことをどう考えていくのか。布令とともに考えていることは重要。
- ② 「売買春は、女性をもっとも墮落させるものとしての役割を満たしてきた。…セクシュアリティを管理することは、単に性病から白人植民者の健康を守る以上のことである。すなわち、帝國的設定の中で、性的接触の主要な様式として、売春の概念を促進することによって、植民地当局は、帝國的イメージの中で、地域社会を定義、判断、支配する。このように、売買春は、植民者の男性のための性的サービスを提供するだけでなく、墮落の指標を与えながら、複雑なやり方で、国家 state の関心を引き付けた」(Levine 2003: 179)。⇒「無籍者」問題との関連。売買春が出て来るときに

浮かび上がる社会問題をどう考えるか。日本軍の従軍慰安婦の問題 (= 日本兵士の性病管理、機密漏洩管理、日本軍のホモソーシャルな結束点…ゲイの兵士をどう考えるか) をどう位置づけるか考える。white の健康管理だけでなく、ネイティブ女性の墮落の表象の中で捉えようとしている彼女の論文を考えると、慰安婦だけでなく、現地の性風俗の管理についても見る必要がある。日本内地、植民地、それぞれにおける女性との関係。日本人の慰安婦と朝鮮人の慰安婦の差異を認めた上で、議論をしているけれども、差異化を見ることは弱いのか (小野沢論文の印象)。

- ③ 「植民者と被植民者との間の必要な絶対的なギャップを維持するために、ローカルな実践、慣習や価値について明白な誤解をすることによって、植民化されている人々の間の差異を最小化する」 (Levine 2003: 179)。⇒ギャップを維持するためには、植民化されている人々の間の差異を最小化するだけでなく、あえて差異を作り出すということも行われていると見るべきではないか。1956 年、フィリピン人軍属は、布令改定で、米軍要員から非琉球人となった。非植民者を土地に拘束されている人々と前提してしまうと、フィリピン人軍属のような人々は見えなくなってしまう。土地、領土化の問題を不可視化しない視点が必要である。
- ④ 「性産業は、植民地的発明ではないが、圧倒的な男性植民者数の存在は、ローカルな性産業を拡大し、変化させてきた」「この売買春の拡大と変容は、性的欲望に関する疑問を呈するとともに、女性たちの職業的選択としての売買春の持続的存在の役割を果たす」「コンネルが言うように、性的欲望は歴史の外にあるのではなく、政治的歴史的なものである」「その主張は、性的欲望を歴史的な偶発的なものとみなす特定の条件 particularities を含む、広い歴史的な枠組みの中で読む必要がある」 (Levine 2003: 197)。⇒性欲神話を否定するために、レイプを、性的欲望の外に置いて、権力の支配としてだけ見てしまう危険性を示唆しているのではないか。性欲を自然化しない。性欲や性欲なるものの歴史的生産性と権力を同時に問うことができる。買春が 1920 年代に爆発的に増えたことをどう見るかが必要である。